序

奈良国立文化財研究所が，平城宮跡の継続的な発掘調査を開始して以来，本年で満30年をむかえる。その間，平城宮跡と不可分の関係にある平城京域についても，特に重要と思われる箇所については鋭意調査を進めてきた。そのうち左京三条一坊の国道24号バイパス計画地，左京三条二坊の市庁舎予定地での貴族の邸宅跡，おなじく左京三条二坊の宮跡庭園等の調査は，比較的大面積を発掘した例である。これらについては，既に学報としてその成果の刊行を果しており，最近の調査で話題を呼んだ長屋王邸跡についても，木簡等遺物の整理を早急に進め，全貌の公表ができるよう努力している。

この学報は，昭和60年から62年にかけておこなわれた平城京右京八条一坊十三・十四坪の発掘調査の成果をとりまとめたものである。この調査は，同地における清掃工場建設に関連して大和郡山市の要請をうけて実施した。調査の結果，奈良時代前半には，この地域に官営と思われる鋳造・漆工の工房が営まれ，後半になると小規模宅地が密集する状況に変化することが明らかになった。京内における工房の実態をはじめて明らかにし，また長屋王邸など宮に近接した地域に多い貴族の邸宅とは違った，平城京を底辺で支える庶民の住宅の様子が判明する資料を得た意義は小さくないものと考えている。

このたびの調査に際して御協力下さった大和郡山市当局に謝意を表するとともに，種々御指導いただいた平城宮跡調査整備指導委員会の諸先生方に感謝申し上げる次第である。

おわりに，内容その他にわたって忌憚のない御批判と御鞭韃をたまわれば幸いである。

1989年3月

奈良国立文化財研究所長

鈴　木　嘉　吉